若年層の活躍を期待して

同窓会会長　有田　和男（31 回）

＊　**はじめに**・・・・・

荒々しい時代の波に揉まれ2011年の幕が揚がりました。新しい政治に託した期待も、今だに「海図なき航海」に翻弄され彷徨い続けています。この荒海を乗り切るには他力に頼る事なく、自力本願の厳しい道を求めざるを得ないと思えてなりません。

一方、同窓会の今後の有り様も、刻一刻と多様で深刻な変化を遂げる、この内外の厳しい現実に直面して、何か大きく変わらざるを得ないとの予感を覚えてなりません。

同窓会の歴史を振り返る時、戦争・敗戦・同窓会の再構築・阪神大震災・財政難などの幾つかの存在危機を乗り越え、その歩んできた道程は決して容易なものではなかったと理解します。その時々の先輩方の叡知と融和、そして多大なご苦労をお掛けして、現在の同窓会への発展があったと信じています。

同窓会の現状は、同窓生皆様の母校に学んだ時代の背景、更には卒業年次と年代によって、その母校と同窓会に対する思いや考え方、そして接し方に微妙な差異が顕著に現れてきたように思えてなりません。その感覚の違いが、今後の同窓会の運営に大きく影響を与え、その活動の難しさを実感させられてきています。

＊　**先の理事会から**・・・・・

昨年の11月30日に平成22年度の理事会が開催されました。この理事会に出席された理事さんの７・８人の方から、後日ですが書信などを頂戴し貴重なご意見を賜りました。

その一つに、最近の同窓会は理事会での議論を含め、何か元気が無くなったように思える。もっと活発な議論の交換が欲しかった。また、会報も、何かマンネリ化してしまっているようで、紙面などに新鮮味が乏しくなってきているように思える。更に、同窓会としてのホームページの充実を求める意見も賜りました。

確かに、理事会・役員総会で、お互いの意見交換が少なくなっている事は私も感じています。これは主催者側が心して考えなければと思います。

ただ、各委員会では多くの若手層を新しく起用する事で、新しい視点からの議論が活発に行われるようになりました。この若手層からの意見交換の場から、直面する変化多き新時代への対応を探っていきたいと考えています。母校の卒業生も90回生台に入っています。次代の同窓会を担う人材も多く育っています。今まで同窓会を担ってきた同窓の方々のご努力に感謝すると共に、この若手層の活躍に期待すること大なるものがあります。

＊　**会報など**・・・・・

会報の発行は年２回ですが、同窓会が同窓生全員と直接に触れ合い、お互いが交流が出来る唯一の手段です。このことを大切に考え、同窓生の皆様が求め・読んで頂ける内容を常に追求したいと考えています。ただ、10年前・５年前の会報に比べれば、一歩ずつの進歩はあるとの自負はあります。

ホームページは、新しいページを作製中です。会報の第１号から現在の第83号までを掲載する作業も考えています。これを掲載する理由の一つは、中学への受験生が、同窓会のホームページまで検索して受験校を選択しているとの話があり、素晴らしい母校と共に歩む同窓会の歴史と活躍、その両者の歩みを同窓生と共に、受験生にも理解して欲しいがためであります。このことが母校への貢献の一つにもなればと願っています。

＊　**自分に思うこと**・・・・・

この正月休みに、何を読もうかと書庫を漁りました。たまたま若い時に愛読した「平家物語」が目につきました。昔は、平家一門の興亡を琵琶との語りで聞き、巻一の「祇園精舎の鐘の声」の冒頭から魂が引き込まれる思いでした。

もう歳のせいで昔に朱線を引いた箇所のみを拾い読みをしました。巻七に「一樹の陰に宿るも先世の契りあさからず」の宗盛の言葉は、よく同期会の呼掛けで、甲陽時代の「縁」を大切にと引用をさせて貰いました。

八十歳の大台に達した今、巻九の「雪は野原を埋めども、老いたる馬ぞ道はしる」の文に何か心が引かれ、高齢化社会での生き方に、何か示唆を得たいものと考えています。

甲陽だより

発行所
〒662-0096 西宮市角石町3-138
甲陽学院同窓会
発行人 有田和男
印刷所
株式会社 小西印刷所
西宮市今津西浜町2番60号
TEL（0798）-33-0691

同窓会事務局専用
TEL 0798-71-4888
（月・水・木・金 10：00～16：00）
FAX 0798-71-4890
E-mail：
fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

白鹿クラシックス
Hakushika Classics
西宮市鞍掛町（礼場筋・臨港線交差点）
■定休日／火曜日

レストラン＆カフェ
AM11:00～PM10:00
（ラストオーダー PM9:00）
明治時代の酒蔵を
シック＆カジュアルな和空間に。
0798-35-0001

ミュージアムショップ
AM10:00～PM7:00
蔵元ならでは、
お酒にまつわるアイテムが大充実。
0798-35-0286

酒ミュージアム
白鹿記念酒造博物館
AM10:00～PM5:00
（入館は4時30分まで）
日本固有の文化「酒づくり」を未来へ伝承
0798-33-0008

卒業生と母校、在校生を結ぶ絆
奨学金ファンドにご理解とご支援を！

＊制度の設立趣旨・・・・・

甲陽学院同窓会・奨学金ファンドの制度は、ご承知の通り平成17年度から発足し、活発な募金活動を行ってきました。そして翌18年度から母校の在校生への奨学金支給を行ってきました。

この制度創設の目的は、同窓会会則の第３条に同窓会設立の目的として「会員相互の親睦と母校発展への寄与」が明記されています。この「母校発展への寄与」という命題に真剣に取り組み、「甲陽学院同窓会奨学金ファンド」が設立されました。

勿論、甲陽学院辰馬育英会の学校経営方針に整合する形で発足させ、同窓会として母校の発展に少しでも寄与出来ればとの願いが根本の理念となっています。

よって、奨学金支給対象者の選定は、学校内に設けられた「奨学生選考委員会」に全てお任せをしています。

＊募金活動の経過・・・・・

募金活動を開始して、今年で６年目となりました。同窓生皆様のご理解とご支援により、また毎年の甲陽ファンド管理委員会の委員の皆様のご苦労により、募金金額の総額も昨年で5,000万円近い金額に至りました。然しながら、目標とする募金総額１億円には、まだ道は半ばであります。

更には、昨今の厳しい経済・社会状況を考えるとき、今後の募金活動の厳しさは覚悟しなければなりません。また、ここ２・３年の拠金状況も年々に減少の傾向は否めません。

これの打開に、毎年の奨学金ファンド委員会では、知恵を絞り苦労を厭わず懸命の努力を重ねてきました。この委員会に携わり、募金活動に奮闘された委員の皆様には感謝あるのみです。特に、当番学年の皆様には心からの御礼を申し上げます。

＊奨学金の支給・・・・・

奨学金の支給対象者には、当初は「成績優秀な生徒」も対象者としていました。しかし近年の経済・社会状況から、就学後に何らかの家庭事情により修学の継続が困難となる生徒の実例が出てきました。先ず、これらの生徒の救済を少しでも図りたいと考え実行しました。

現状は、就学中に他の奨学金や県の授業料軽減制度を利用する生徒もあり、その家庭状況を見ながら学校側に支給対象者の選考を全て任せています。

同窓会として支給対象者枠（各学年・１名および緊急採用者）と支給金額（年間・１人・20万円）の原則としての取り決めがあります。今後は、一般の経済や生活状況を見ながら、支給対象者の増員と支給金額の増額など、その他の事柄も併せての検討を視野に入れたいと考えています。

＊今後の募金活動・・・・・

ファンド委員会による毎年の募金活動は、例年の通り真剣に取り組みます。しかし、ここ２年ほどの拠金額は減少ぎみの傾向にあり、これの挽回を図りたく考えていますが難しいものがあります。

そこで、一つの打開策として提案したいのは、来年が創立95周年の記念の年になります。この記念事業として一人・一口・一万円の拠金運動を実施してはと考えています。現在、把握しています同窓生は１万人を超えています。全員の同窓生にご理解とご支援を頂ければ、目標額の１億円も現実のものとなります。

＊一つの願い・・・・・

この制度は、決して完成されたものとは思っていません。次代に引き継ぎ、少しずつ補完しながら継続することが大切と考えています。

母校は、卒業生・在校生から寄付を募らないという誇りと見識を持っています。この奨学金制度は、あの母校の発展に貢献が出来る数少ない道でもあります。

誰しも或る年齢に達すれば、必ず「母校への心の回帰」が訪れるものです。自分の人間形成の原点が、あの甲陽で過ごした時代にあることを実感するものです。その母校への思いを、**一人・一口・一万円の一灯**に託して頂ければ、修学を断念する事なく優秀な後輩を世の中に送り出す事が出来ます。皆様のご理解とご賛同を心からお願い申し上げます。（同窓会長　有田和男）

－甲陽ファンド管理委員会－

［醵金方法］

（１）同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醵金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、

（２）三菱東京UFJ銀行芦屋支店　普通口座3998990　口座名義　甲陽学院同窓会奨学金ファンド　にお振り込み下さい。

(2) の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

甲陽学院同窓会奨学金ファンド醵金者一覧

平成22年６月１日以降12月31日までにファンドに醵金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(平成22年５月31日以前に醵金された方は73号～82号に掲載しております。)

18回　河合　國一
19回　石井　賢治
20回　小林　英夫
24回　織部　成一
25回　高田　典雪
27回　光野　　昭
31回　鈴木　　登
31回　八木　頼夫
33回　樋口　勝彦
33回　若田雄太郎
35回　尾山　啓二
36回　鮎貝　盛和
38回　江嵜健一郎
38回　高寺　美慈
39回　加輪上敏彦
39回　榊　　靖夫
41回　赤井　英夫
41回　橋本　　久
42回　栗野　信次
42回　花木　　繁
42回　矢吹　　宏
43回　岩本　威生
43回　平井　真一
44回　木村　正昭
45回　郡山栄治郎
45回　小林　智夫
45回　樋渡　利秋
46回　津田　眞人
46回　山本　一清
47回　大辻　茂雄
47回　坂井　逸郎
47回　原田　豊彦
48回　小森　克紀
49回　窪田　道治
49回　田辺　道雄
49回　長島　久明
49回　森信　静治
50回　斉藤　文夫
52回　飛田　圭吾
54回　中野　　茂
54回　前田　　一
54回　稙田　和孝
55回　浜川　一郎
56回　大野　順弘
56回　近藤　博史
56回　財家　紳吾
57回　白尾　誠二
57回　辻　　尚人
58回　瀧澤　佳樹
58回　仲田　文人
59回　島本　佳憲
60回　篠崎　雅史
62回　長宅　芳男
62回　松本　　浩
64回　岡原　正周
65回　黒田　良祐
65回　小阪　謙三
66回　鍵本　　聡
67回　森本　健嗣
69回　加藤　和弥
70回　齋藤　高廣
72回　小西　洋平
72回　安井　俊之
72回　山下　恭範
74回　徳岡　俊治
75回　木村　尚史
75回　小山　哲史
79回　門脇　　輔
79回　小澤悠一郎
83回　東　　俊博
89回　黒木　俊光
工経　河合　康美
34・35・36回生 有志一同

回生	醵金者数	醵金者率
4	1	(50.0%)
11	1	(7.7%)
13	3	(23.1%)
15	1	(4.2%)
16	1	(4.3%)
17	3	(9.7%)
18	8	(22.2%)
19	3	(6.1%)
20	9	(11.0%)
21	4	(6.1%)
22	7	(9.9%)
23	9	(9.6%)
24	7	(8.1%)
25	9	(8.1%)
26	0	(0.0%)
27	20	(21.7%)
28	6	(12.0%)
29	5	(17.9%)
30	2	(8.7%)
31	28	(35.4%)
32	6	(7.2%)
33	25	(22.5%)

回生	醵金者数	醵金者率
34	37	(52.9%)
35	47	(45.2%)
36	45	(50.0%)
37	56	(46.7%)
38	49	(41.9%)
39	68	(51.1%)
40	73	(52.1%)
41	15	(11.4%)
42	15	(12.3%)
43	14	(9.9%)
44	8	(5.5%)
45	26	(17.0%)
46	12	(6.9%)
47	16	(9.0%)
48	8	(4.5%)
49	20	(10.8%)
50	10	(5.6%)
51	11	(5.7%)
52	12	(6.4%)
53	7	(4.0%)
54	18	(9.5%)
55	15	(7.3%)

回生	醵金者数	醵金者率
56	16	(8.7%)
57	23	(10.6%)
58	24	(12.8%)
59	17	(8.2%)
60	18	(9.3%)
61	8	(4.2%)
62	23	(10.8%)
63	8	(5.1%)
64	10	(6.1%)
65	9	(5.3%)
66	5	(3.1%)
67	9	(5.2%)
68	4	(2.4%)
69	8	(4.7%)
70	5	(2.9%)
71	3	(1.8%)
72	19	(9.9%)
73	1	(0.6%)
74	8	(5.2%)
75	12	(7.0%)
76	5	(3.2%)
77	3	(1.8%)

回生	醵金者数	醵金者率
78	3	(1.7%)
79	4	(2.2%)
80	2	(1.1%)
81	1	(0.5%)
82	3	(1.5%)
83	9	(4.5%)
84	1	(0.5%)
85	1	(0.5%)
86	2	(1.0%)
87	3	(1.5%)
88	2	(1.0%)
89	2	(1.0%)
90	1	(0.5%)
91	1	(0.5%)
高商1	0	(0.0%)
高商2	1	(2.2%)
高商3	1	(2.6%)
高商4	2	(4.3%)
工専1	5	(8.9%)
工専2	3	(9.1%)
工経営	2	(11.8%)

＊醵金者数は「述べ数」です。同一人物が複数回醵金された場合はその複数回をカウントしています。
＊＊醵金者率を算出する際の分母は、回生ごとの人数から物故者と住所不明者の人数を差し引いた数です。
＊＊＊23回、34回、35回、36回、39回、40回で「ご一同様」からの醵金がありました。それについてはやむをえず１人分でカウントしています。

会　務　報　告

平成22年11月30日に行われました同窓会理事会における議論を中心に、会務についてご報告いたします。

1　会報編集委員会

第82号を平成22年７月17日付で発行。紙面は、巻頭言・会務報告・ファンド関係・学校だより・リレー随筆・訃報・会員だより・会員総会案内などでした。

2　会員総会運営委員会

平成22年８月28日（土）の午後２時から５時30分まで、ノボテル甲子園におきまして、恒例の夏の会員総会を挙行しました。

第１部は１階「鳴尾の間」にて式典と講演会。今回はゲストスピーカーとして大阪大学の西田正吾氏（51回）をお招きし、「21世紀の大学が目指すもの、求めるもの」と題して１時間あまりのご講演をいただきました（内容は右に掲載の通り）。

第２部は、会場を２階「甲陽の間」に移して懇親会。当日の参加者は約240名でした。

3　甲陽ファンド管理委員会

本格的にファンド委員会が発足してから６年目、在校生への支給を始めてから５年目を迎えます。

在校生へは、今年度各学年１名の合計６名に奨学金を給付しました。１名につき年間20万円です。

これまでに集まった醵金は5000万円弱で、平成22年度は４月から10月までで約220万円です。

4　ＩＴ委員会

今年度から新設されたＩＴ委員会では、サーバ契約の内容変更によるコストダウンをはかるとともに、メーリングリストのあり方の検討、同窓会ホームページのリニューアルについて議論し、新規作成の作業に入っています。

「21世紀の大学が目指すもの、求めるもの」

平成22年度の会員総会第１部講演会では、大阪大学理事・副学長の西田正吾氏（51回）より以下のようなお話がありました。

①　甲陽時代の思い出
②　企業の研究所から大学に移った時に感じたこと
③　最近の学生に対して感じること
④　国立大学の法人化について
　a．法人化決定までのプロセス
　b．第１期６年間の具体的な体制・問題点
　c．第２期に向けた課題
⑤今後の大学がめざすべきこと
⑥まとめ

①では、白風呂敷、自由な校風、自由な授業、甲陽を通じたヒューマン・ネットワークなど。

②では、公務員と私企業の違いを痛感。

③では、ハングリー精神の欠如＝従順だが積極性に欠ける＝簡単に満足してしまう＝海外に行きたがらない。学力低下とは思われないが研究力の低下は感じる。理系離れ＝工学離れ＝電気離れ。研究志向の学生比率の低下。

④では、非公務員化、予算の変化、運営交付金の問題、教員の業務が教育が増え研究が減ったこと、第２期に向けた課題としては、評価負担の軽減、大学の方向性を示す必要、運営交付金の配分の問題など。

⑤では、教育の国際化、研究の国際化、産学連携による人材育成、社学連携、大学を魅力ある職場にすることなど。

⑥では、大学は人材育成の場所、国にとって「将来への投資」であることを皆さんにご理解いただきたい。

終身会費納付額設定表（平成23年3月31日まで）

91回～85回	30,000円	71回	37,000円	57回	23,000円
84回	50,000円	70回	36,000円	56回	22,000円
83回	49,000円	69回	35,000円	55回	21,000円
82回	48,000円	68回	34,000円	54回	20,000円
81回	47,000円	67回	33,000円	53回	19,000円
80回	46,000円	66回	32,000円	52回	18,000円
79回	45,000円	65回	31,000円	51回	17,000円
78回	44,000円	64回	30,000円	50回	16,000円
77回	43,000円	63回	29,000円	49回	15,000円
76回	42,000円	62回	28,000円	48回	14,000円
75回	41,000円	61回	27,000円	47回	13,000円
74回	40,000円	60回	26,000円	46回	12,000円
73回	39,000円	59回	25,000円	45回	11,000円
72回	38,000円	58回	24,000円	44回～	10,000円

終身会費納付額設定表（平成23年4月1日～平成24年3月31日まで）

92回～86回	30,000円	72回	37,000円	58回	23,000円
85回	50,000円	71回	36,000円	57回	22,000円
84回	49,000円	70回	35,000円	56回	21,000円
83回	48,000円	69回	34,000円	55回	20,000円
82回	47,000円	68回	33,000円	54回	19,000円
81回	46,000円	67回	32,000円	53回	18,000円
80回	45,000円	66回	31,000円	52回	17,000円
79回	44,000円	65回	30,000円	51回	16,000円
78回	43,000円	64回	29,000円	50回	15,000円
77回	42,000円	63回	28,000円	49回	14,000円
76回	41,000円	62回	27,000円	48回	13,000円
75回	40,000円	61回	26,000円	47回	12,000円
74回	39,000円	60回	25,000円	46回	11,000円
73回	38,000円	59回	24,000円	45回～	10,000円

学校だより

甲陽学院同窓生講演会

高等学校

テレビの裏側
−ニュース番組の製作現場から−

読売テレビ放送報道局　佐藤智也（79回）

2010年10月９日（土）の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚教室において、第10回の同窓生講演会を開催しました。

佐藤氏は、1998年に甲陽学院高校を卒業した79回生。京都大学理学部卒業、大学院理学研究科修了後、読売テレビ放送に入社、報道記者３年を経て、現在「情報ライブミヤネ屋」のディレクターとしてご活躍中です。

テレビという「花形業界」に勤める先輩の話が聴けるとあって、当日は自由参加にもかかわらず90名ほどの生徒が集まり、会場は満員となりました。

佐藤氏のお話ですが、前半は「テレビの裏側」とのタイトル通り、ご自身が経験されているテレビのお仕事の一端を紹介されました。そして後半は、ご自身の歩みを述べられることによって高校生の進路選択にヒントを与えてくださいました。

前半では、報道記者の仕事とディレクターの仕事、視聴率、スタジオや普段の職場の様子、などをＤＶＤの動画も使ってご説明いただきました。「仕事のノウハウは数年やれば身につくけれど、私が常に心がけているのは相手の立場で考えるということです」とのまとめが印象的でした。

後半は、高校時代から理系、理学部進学、大学院卒という経歴の自分がなぜ報道の世界を志したかについて話されました。最後に後輩へのメッセージとして「あなたはやりたいことを選べるという超ぜいたくな環境にいる。だからこそ忘れないで欲しいことは、自由には責任が伴うということ。志望大学を決める時点で仕事を決めておく必要はない。常に自分を見つめることができていれば大学には行ってから仕事を考えても遅くない」と熱く語られました。

予定の１時間があっという間に過ぎ、講演終了後も生徒たちが佐藤氏を取り囲んで、質問などをぶつけていました。

（甲陽学院高等学校教諭　今西昭　記）

～～～

学校だより　越山弘規君(高2)国際数学オリンピック銀メダル受賞

本学院高校２年生の越山弘規君が、昨年７月に行われた第５１回国際数学オリンピック（ＩＭＯ）カザフスタン大会に出場し、銀メダルを獲得しました。

国際数学オリンピックは毎年１回行われ、各国最大６名の選手が出場できます。昨年１月に代表選手の選抜試験を兼ねた第２０回日本数学オリンピック（ＪＭＯ）の予選が行われ、越山君は本選に駒を進めました。続いて２月に行われた本選にて越山君は銀賞を受賞し、出場選手を決定する春合宿への参加の権利を得ました。「ある程度無難にこなせた」（本人談）春合宿の後、正式決定の連絡があり、甲陽生として初めて数学オリンピックに出場することとなりました。

その後甲陽での学校生活を送る傍ら、数学オリンピックの準備を進めました。出発直前には学年の有志でささやかながら壮行会も開きました。昨年のカザフスタン大会の日程は以下のようなものでした。

７月４日　成田空港発
　５日　ウィーン経由でカザフスタンのアスタナへ
　６日　開会式
　７日　コンテスト第１日目
　８日　コンテスト第２日目
　９～12日　観光
　13日　閉会式
　14日　アスタナ発

７月６日の開会式に日の丸を携えて登場した日本代表選手団

テストは２日間あり、各１日４時間半で３問ずつに挑戦します。大会で越山君は見事銀メダルを獲得しました。日本の成績は、個人成績は金メダル２個、銀メダル３個、優秀賞１個で総合成績７位という素晴らしいものでした。帰りは、飛行機に乗り遅れて日本を目前にして北京に一泊するというハプニングもありましたが、無事に帰国しました。

夏休み明けの始業式で、校長から全校生徒に活躍が報告され、大きな拍手を受けていました。その後、12月には今回の功績に対し兵庫県から文化・スポーツ等の分野で活躍した生徒に贈られるマロニエ賞を受賞しています。以下、越山君本人へのインタビューです：

Q　日本代表に選ばれたときの気持ちは？

A　正式な連絡があったときは興奮しました。国内選抜の時点では敵だとしか捉えられなかった他の生徒が国際大会では仲間になると考えると、気が楽になりました。

Q　代表に選ばれるまでと選ばれてから、それぞれどのような勉強をしましたか？

A　数学オリンピックの対策というと、過去問を解くくらいのことしかしませんでしたが、それに飽きた時に少し現代的な数学に触れたりしたのも間接的には役に立ったと思います。代表に選ばれてからは、数学オリンピック財団から贈られてくる通信添削問題を解いたり、他の学校の代表の人に誘われて勉強会に参加したりしました。

Q　大会を振り返って、楽しかったこと・辛かったことは？

A　同じ趣味をもつ他の生徒と交流できたことが自分には一番刺激になり楽しかったです。競争というか虚栄心のぶつかり合いみたいなところがやはりあるので、本選の直前などは精神的に追い詰められていました。カザフスタンでは、スケジュール通りに事が進まず、大抵遅れていました。帰国しようという時に日本の選手3人が飛行機に乗れないというトラブルにも見舞われて、思い出に残りました。

Q　次回への抱負をお願いします。

A　もう今年かという感じです。おそらく今年で数学オリンピックを受けるのは最後になると思うので、悔いが残らぬよう頑張りたいです。オランダ（次回開催国）は普通に観光地としても行きたいところです。

Q　最後に、あなたにとって数学とは？

A　「数学」は「数学」で、「数学オリンピック」とは別物の、ある種「神様」みたいなものだと思っています。

今年は３年生になり、受験も控えて忙しくなると思いますが、オランダ大会に出場して金メダルを獲得することを期待して止みません。　（溝口　記）

７月29日に文部科学省を表敬訪問した日本代表の６選手
前列中央右が川端文部科学大臣、左が鈴木文部科学副大臣、後列右から２番目が甲陽学院の越山君

学校だより

クラブ活動近況

最近のクラブ活動の様子をご報告します。中学校では昨年９月15日に関西学院中学部を会場として第58回甲陽・関学交歓競技会（甲関戦）が行われ、９種目のうち陸上・テニス・バレーボールの3種目で勝利しました。惜しくも総合４連覇は逃しましたが、例年に劣らぬ熱戦となりました。また、バレーボール部は西宮市内大会で２年連続優勝し、今後も活躍が期待されます。一方高等学校の各クラブも頑張っています。そのうち剣道部・バレーボール部・アンサンブル部の近況報告を頂きましたので、以下に掲載します。また、母校の体育科教諭で柔道部顧問の片山雄一朗先生が千葉国体に兵庫県代表として出場されましたので合わせてご報告いたします。

片山雄一朗先生　国体に出場

2008年から母校で保健体育を担当されている片山雄一朗先生が昨年秋に千葉県で開催された国民体育大会の柔道競技に兵庫県代表選手として出場されました。惜しくも3回戦で敗退となりましたが、今後も第一線の選手としてのご活躍が期待されています。

高校剣道部川村太郎君　全日本都道府県対抗剣道優勝大会県代表候補に選ばれる

高等学校剣道部１年生川村太郎君が１月に行われた第59回全日本都道府県対抗剣道優勝大会県予選会（県内より16人選出）に出場しました。１回戦に勝利しましたが、２回戦で敗退しました。

川村君が所属する高等学校剣道部は、阪神地区新人大会を第３位の成績を収め、11月に行われた兵庫県新人大会に出場しました。団体戦は順調に勝ち上がりましたが、３回戦でシード校である滝川第二高校に惜しくも敗退しました。個人戦では阪神地区大会を勝ち抜いた３人が出場しましたが、その中でも川村君は阪神地区第三位、県大会ベスト16に入り、県代表候補に選出されました。

剣道部は近畿大会出場を目指し、部員全員がお互いに切磋琢磨しつつ日々稽古に励んでいます。これからも応援よろしくお願いします。

高等学校バレーボール部　近畿私学大会出場

高等学校バレーボール部は、現在12名（２年生５名、１年生７名）で活動を行っています。夏の兵庫県私学大会において第三位に入賞し、平成22年度全国私学近畿予選会（９月開催：全22チーム出場、兵庫県より３チーム）および平成23年度全国私学大会の予選を兼ねた第29回近畿私学大会（12月開催：全32チーム出場、兵庫県より６チーム）に出場しました。９月に行われた全国予選会ではグループリーグ三位（４チーム中）で惜しくも全国大会出場はなりませんでした。12月に行われた近畿大会ではグループリーグ二位（４チーム中）で予選を勝ち上がり、各グループリーグ二位の８チームで行われるトーナメントにおいて１回戦には勝利し、第三位入賞しました。

現在は阪神地区１部リーグに所属（秋に昇格）し、１月に行われた阪神地区新人戦で優勝しました。部の目標は、２月に行われる兵庫県新人大会においてベスト８以上の成績を収めることです。普段の活動は、練習メニューなどを自分達で考え工夫して取り組んでいます。バレーボールをしていると楽しいことばかりではありませんが、多くのことを学ぶことができます。様々な人の支えに感謝し、これからも文武両道で頑張っていきたいと思っていますので、応援よろしくお願いします。

＊近畿私学大会（12月）
予選リーグ：○（2-0）大阪電通大高校、○（2-0）京都外大西高校、●（1-2）清風高校
決勝トーナメント（二部）：１回戦○（2-0）金光藤蔭高校、準決勝●（0-2）履正社豊中高校

＊阪神地区新人大会
県出場決定戦：○（2-0）甲南高校
順位決定トーナメント：１回戦○（2-0）伊丹西高校、準決勝○（2-0）鳴尾高校、決勝○（2-0）伊丹北高校

＊追記　県新人大会で第５位になりました。
２回戦○（2-1）西脇高校　３回戦○（2-0）飾磨工業高校
準決勝●（0-2）市立尼崎高校

高等学校アンサンブル部　関西大会　金賞

アンサンブル部は今年度も有馬先生の指揮の下、昨年夏の吹奏楽コンクール（高等学校Ｓ部門）に出場しました。

曲目は「Take 5」で知られるデイブ・ブルーベック作曲のジャズの名曲「トルコ風ブルーロンド（Blue Rondo a la turk）」です。この曲は８分の９拍子を２－２－２－３という変拍子で演奏します。今回はその吹奏楽アレンジ版で、中間部のスイングではアルトサックスとトランペットのソロをそれぞれ２年生と３年生が見事に演奏し、聴衆をうならせました。

各大会での結果は以下の通りです。

７月30日（金）　西阪神地区大会（西宮市民会館アミティホール）
金賞を受賞、西阪神地区代表として県大会へ
８月９日（月）　兵庫県大会（三田市総合文化センター郷の音ホール）
金賞を受賞、兵庫県代表として関西大会へ
８月21日（土）　関西大会（奈良県文化会館）
金賞、きらめき賞を受賞

昨年の夏は特に暑く、夏休みに入ってから中学の講堂で毎日汗だくになりながら練習を重ねました。その甲斐あって、３年ぶりに関西大会に出場し、悲願のきらめき賞を受賞することができました。部員、顧問一同大変喜んでおります。

第18回 リレー随筆

ブラジルの日系社会

財団法人日伯協会副理事長
多田　義治（38回）

はじめに

近年、ブラジルは国際社会の中で、新興国として政治・外交、経済面で顕著な存在感を発揮している。かつてブラジルと云えば、コーヒー、サンバ、サッカー、アマゾンなどが連想されたものである。1980年～90年代は過去の開発投資による対外債務が膨らむ一方、ハイパーインフレーションに耐えられずデノミを繰り返すなど苦難の時期であったことを知る人は少ない。

その時期にあたる1981年から約８年間、建材メーカーの現地法人代表として在勤を含めてブラジルに関わってから、ちょうど30年になる。私のことを「ブラジル通」とよく云われるが、決してそうではない。ブラジルが好きで、ブラジルを愛する「ブラキチ」の一人にすぎない。私が在住していたのは、アマゾン川河口に位置するパラー州の州都で人口150万人のベレン市、南米最大の都市サンパウロとは南北に3,000キロの距離があり、時差（ブラジルには４つある）はないものの気候は異なり、いわば外国同然の所である。ブラジルの面積は日本の約23倍ある広大な国、私自身一度も足を踏み入れたことのない州を数えてみると、27州中で８州もあり到底「通」と呼ばれるような知識を持ち合わせていない。しかし、帰国してから縁あって財団法人日伯協会（1926年創立）に入会し、現在は役員の一人として２国間交流や移住ミュージアム運営など移住者を顕彰する事業などにライフワークとして参加しながら、今なお２年に１回のペースで日本とブラジルを往来している。

史上初めての女性大統領が就任

2011年を迎えた元旦、ブラジルの首都ブラジリアでは、ルセフ新大統領の就任式が行われていた。ブラジルに史上初の女性大統領が誕生するとあって、メディアは就任式の模様を世界中へ一斉に報道した。日本のテレビ、新聞は時差の関係で翌日の２日、ブラジルの情報としてはいつも以上の大きな扱いであった。米国のクリントン国務長官をはじめ世界各国から現職の大統領、首相や閣僚、王族クラスが多数参列した。日本からは政府特使としては異例の野党から麻生太郎元総理（日伯議員連盟会長）が派遣されたが、今後の日伯関係軽視とも受け取られかねず、現地の日系社会のみならず我々も失望した。

ルセフ大統領と政府特使の麻生議員

新大統領は、国民から圧倒的な支持を得ていた前ルーラ大統領（２期・８年）の後継者に指名された元官房長官。昨年10月３日の選挙に与党の労働者党（＝ＰＴ）から「ルーラ大統領の政策継続」を掲げて出馬したが、過半数に至らず10月31日の上位２人による決選投票で勝利した。前ルーラ大統領といえば、貧しい家庭に育ち小学校も卒業しておらず、施盤工として働きながら労働者党創設に関わった前歴の持ち主である。８年前大統領に就任以来、貧困撲滅と経済発展に辣腕をふるい、国民から87%におよぶ圧倒的な支持を得ていたカリスマ的な政治家で、今後も労働者党の最高指導者として影響力が発揮されるものと思われる。

移住者が築いた海外最大の日系社会

皇太子殿下ご出席の移民100周年記念式典

ブラジルは、地球の反対側にある遠い国であるが、日本にとっては移住を通じて親戚同様の密接な関係にある国である。日本人のブラジル移住の歴史は、1908（明治41）年移民船「笠戸丸」が781人の移住者を乗せて神戸港を出港したときから始まり103年が経った。この間に日本からブラジルへ移住した約25万人は、現在１世から６世まで約150万人におよぶ海外最大の日系社会を構成している。

３年前の2008年は、100周年という節目を迎えて、日本とブラジル両国で盛大な式典や１年間を通して数々の行事が行われた。ブラジルは、多くの国からの移民を受け入れている多民族国家であり、政府主導で特定の国と周年を祝う記念事業を実施した例は過去にない。ブラジルにおける日本人移民100周年は、国を挙げて「ブラジル歴史の重要な記念すべき年」と位置づけていた。つまり、日系人はこの100年間、ブラジルの国家建設や文化、経済の発展に大きな貢献をしたからに他ならない。

日系人成功の原点は「教育」

初期の移住者はすべて農業に従事し、耕地を開拓しながら昼夜家族ぐるみで農業を支えてきた。子弟を単なる労働力として使わず、両親は犠牲を払いながら「教育」に力を注いだ。近くに学校がない移住地では、寺子屋式の学校を設けて日本語による自前の教育を施した。親の期待に応えた子弟は、苦学をしながら大学を卒業して、ブラジルにおける日系人の社会的地位を向上させることができたのである。一方、彼等の努力もさることながら、ブラジルは当時から公立の小学校から大学まで学費無償の制度があり、現在も継続されていることに賞賛をおくると同時に、日本政府は税金の無駄なバラ撒きをやめて見習うべきである。

ブラジルにおける「大学進学率」は全国平均11%に対して、日系人は25%以上である。南米最高の教育機関と定評がある「サンパウロ大学＝ＵＳＰ」は、７つのキャンパスを持つ州立総合大学で、学生数86,000人の中、日系学生が15%を占めているが、教員5,200人の８%も日系である。ブラジル全体の人口比で、日系人は僅か0.8%にも拘わらず、日系人学生比率が20%に達した時期もあったそうで、日系社会の教育への熱意が伝わってくる。

ブラジルの小話ともいえるピアーダ（＝Piada）に、日本人が集まれば最初に「学校」を建てるが、イタリア人はすぐに「教会」を建てる、というのがある。

ブラジルの発展を支える日系人

ブラジルの安定した経済成長を支えているのは、一般的に好調な資源輸出と旺盛な内需があげられる。確かに、中国やインドなどの新興国の需要の高まりによる農産品や鉱物資源供給国のイメージは強いが、最近では輸出比率の半数以上を工業製品が占めている。特に、航空機、自動車、鉄鋼製品、バイオ燃料（エタノール）など輸出優位の品目は多岐にわたる。また、2014年のサッカーワールドカップ、2016年リオデジャネイロのオリンピック開催に向けてインフラの整備や中産階層の購買力アップによる内需が加速している。

更に、特筆したいことは「日系人パワー」である。ブラジルでは、日本人や日系人のことを「ガランチード＝Garantido（信頼できる人）」と呼ばれている。勤勉、誠実、裏切らない日系人が尊敬され、高学歴を必要とするあらゆる分野で社会的リーダーとして活躍し発展を支えている。

前大統領のルーラ氏は、補佐官や政策ブレインに優秀な日系人を起用して成果を上げた。政界では、連邦上下院議員、州議会議員をはじめ市長や市会議員に日系人が多数在任しているが、その中から近い将来「日系の大統領」が誕生することを期待している。

日本の空を飛んでいるブラジル製航空機

■ブラジルのあらまし

・国　　名：ブラジル連邦共和国
・面　　積：854万平方キロメートル（世界第５位、日本の22.6倍）
・人　　口：１億9,148万人（2009年・IBGE）
・首　　都：ブラジリア
・人　　種：白人系（53.4%）、褐色系（38.9%）、黒人系（6.1%）、
　　黄色系（0.8%）、インジオ（0.4%）
・言　　語：ポルトガル語
・宗　　教：ローマカトリック（74%）、プロテスタント（16%）
・通　　貨：レアル（Real=R＄）＝約50円
　　US＄=R＄1.6716（2011年1月27日現在）
・主要産業：鉱　業（鉄鉱石、マンガン、ボーキサイト、石油、天然ガス）、
　　農牧業（砂糖、オレンジ、コーヒー、大豆、トウモロコシ、綿花、牛肉、鶏肉）、
　　製造業（航空機、自動車、鉄鋼製品、アルミ、エタノール、パルプ）など

多田義治氏

追悼　建内保興さん(同窓会相談役)

松村　幾敏（45回）

12回生建内保興さんは、急性心不全のため平成23年１月７日（享年95歳）お亡くなりになられました。お別れ会は平成23年３月14日、ホテルオークラ東京にて開かれます。

建内さんは、昭和８年、甲陽中学を卒業、六高を経て、昭和16年、京都大学法学部を卒業後、直ちに日本石油に入社された。昭和55年から日本石油の社長・会長を16年間、昭和59年から石油連盟の会長を11年間の長きに渡って務められた。丁度、オイルショック後の時期であり、当時はまだ１次エネルギーの60％以上を石油に依存していた時代である。この時期、建内さんは、石油業界のリーダーとして業界秩序の是正・石油エネルギーの安定供給に大きく貢献された。これらの貢献が認められ、昭和63年には、勲一等瑞宝章を授与されている。

さて、私と建内さんとの出会いは、昭和45年、日本石油に入社した時である。当時人事部長をしていた建内さんから「わしは甲陽中学の出身。君はわしの次に入ってきた甲陽生だ。感慨深いものがある、君が結婚する時は、わしが仲人をしてやる」と言われた時、甲陽に深い愛着を持っておられることを感じた。「戦前の甲陽は野球が強く、大正12年に優勝、春９回夏４回の甲子園出場を果たした。わしが入学した昭和３年には、準々決勝で平安中学に惜敗。この時のメンバーとシーンは今でも思い出すことができる」と言っておられた。これが縁で建内さんは、大の野球ファンになったそうである。日本石油では、戦後間もなく社員の士気高揚のため野球部が創設され、建内さんは、昭和31年から昭和48年まで野球部長を務められた。その間、都市対抗では、初優勝を含めて５回の優勝を果たした。都市対抗最多優勝記録は、ご本人の自慢であった。

このころ、京浜地区にも甲陽の出身者が増え、昭和47年には、銀座日航ホテルで、第１回東京甲陽会が開催された。それから６回開催され、役員改選の必要性に迫られていた頃、私は建内さんに呼ばれ、「藤原さん（５回）と久さん（62回・現　久金属常務）がみえて、東京甲陽会の体制立て直しに際して、会長になってくれと頼まれた。今のわれわれがあるのはわが母校のおかげ、恩返しと思って引き受けたのでサポートを頼む」といわれた。藤原さんは、日本鋼管の役員をされていた頃、都市対抗野球のライバルとして、建内さんと親交が深かった。当時、日本石油には、一色（48回）、堀（52回）、正木（58回）の後輩が入社していたので、彼らの応援も得て、昭和63年６月、第７回東京甲陽会が、200名以上の参加のもと、東商スカイルームで開催された。副会長は長瀬さん（16回・長瀬産業会長）浜田さん（23回・立教大学総長）であった。事務局は当時慶應大学大学院に在籍していた久さんに全面的にお世話になり、母校からは、原同窓会長、小河校長、中島（久）教頭の応援を得て、会を盛り上げていただいた。

東京甲陽会にて長瀬さん（左）と

建内会長から毎年定期的に開催することに価値があるといわれ、翌年からは、毎年10月の第３土曜日の午後開催と決め、このパターンで開催されることになる。平成７年、すべての公職を退く時を機に本会の会長も退かれた。７回から14回開催まで一回も休むことなく出席され、来賓と事務局のメンバーを二次会に招待して、甲陽時代を懐かしんでおられたことからも、甲陽に対する愛着が伝わってきた。この間、本校の同窓会長の原さん、友国さん、高垣さん、そして小河校長、中村校長、中島（久）教頭、吉井先生、山田教頭には関西から応援に駆け付けていただき、大変お世話になったことが昨日のことのように思い出される。事務局は久さんが敷かれた路線を村山さん（56回）、川添さん（62回）が引き継がれた。

時代の流れとともに毎年、全在京者約2000名に郵便で案内を送り総会を開くことは困難となったので、平成15年からは、新宮さん（45回）等の協力により、インターネットを前提に「東京甲陽ネット」が活動を開始し、在京者の交流を図るという精神は、今も引き継がれている。

建内さんは、「自己に厳、他に寛容」をモットーとされ、堅苦しいところに愛情があり、近寄りがたい威厳と信念を持ちながら大変人の面倒をよく見られる方でした。昭和49年私が結婚する時、仲人を頼んだところ、「きりがないので、仲人はやめたよ」と言われました。新入社員当時の話をすると快く「君が49番目で最後だ」と引き受けてくださいました。その数ヵ月後、テレビをみていると、大洋の名投手、平松の結婚式の仲人として、登場していました。

合掌

☆ 編集委員会よりお詫び ☆

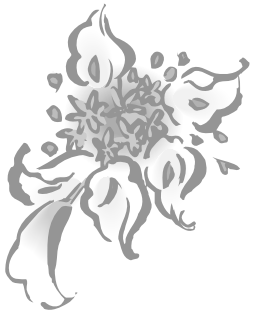
本号の発行が大幅に遅れたため、お別れ会の期日に間に合わなくなりました。
深くお詫び申し上げます。

訃報

（平成23年1月31日現在）

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

上新　信幸氏	（10回）	86年10月20日
建内　保興氏	（12回）	11年1月7日
宮嶋　泰夫氏	（13回）	
谷口　直弥氏	（14回）	10年5月23日
新家　正俊氏	（14回）	10年6月3日
山路　忠信氏	（14回）	09年9月27日
富田幸三郎氏	（18回）	10年11月19日
萩野　茂氏	（18回）	10年3月10日
高田　昌延氏	（20回）	10年3月14日
吉村　慶嗣氏	（21回）	10年8月21日
廣田喜八郎氏	（22回）	10年5月21日
松尾　福夫氏	（22回）	08年9月6日
中根　健三氏	（23回）	10年7月20日
石橋　殻一氏	（23回）	10年7月11日
三輪　祐通氏	（23回）	10年6月24日
新海　敏雄氏	（24回）	10年7月8日
馬場　孝氏	（24回）	09年8月
国松久二夫氏	（25回）	10年1月1日
山口　圭氏	（25回）	10年10月29日
大工昭三郎氏	（27回）	10年6月15日
櫻田　功氏	（28・30回）	04年6月27日
彼末　陽郎氏	（31回）	10年7月17日
児島　俊治氏	（31回）	10年7月
酒井　一氏	（31回）	11年1月9日
吉野　準一氏	（34回）	
川口　和男氏	（35回）	09年5月2日
宮内　駿輔氏	（38回）	10年9月8日
山本　雅之氏	（51回）	09年3月19日
本多　孝夫氏	（高商1）	08年11月24日
末尾　稔氏	（高商1）	06年3月19日
平野　廣志氏	（高商1）	04年12月
今村　千年氏	（高商2）	10年11月9日
石本　文男氏	（工専1）	10年3月21日



■あて名ラベルの記号の見方

既に終身会費や年会費をお納めの方には失礼ですが、今回も振込用紙を同封しております。未納の方は、よろしくお納め下さい。

平成 23 年 1 月 31 日現在での同窓会費の納入状況をご案内しています。

例：終身会費Ｈ２０年度

♪卒１１１	１１１１１	１１１１１	１１００終

①枠の上には、前納の年度、または、終身会費をお支払い頂いた年度を示しています。その他の場合、この表示はありません。

②枠内には、順に平成元年度、２年度、…22 年度の年会費のお支払い状況を示しています。

▼　記号の意味

1	当該年度分の年会費を納入済	終	当該年度に終身会費を納入	♪	甲陽学院を卒業するまでの年
0	当該年度分の年会費を未納			卒	その年の３月に卒業

従いまして、**枠内に含まれる０の個数　×　年会費**が、未納の年会費となります。
同封の振込用紙にてお支払い下さい。

★H 元年以降にご卒業の方は、卒業時から７年分の年会費を予めお納め頂いております。
次の２つの例をご参照下さい。

♪♪♪♪♪００	♪♪♪卒１	１１１１１	００００００

H16 年以降は未納です。
未納分をお納め下さい

♪♪♪♪♪１１	♪♪♪♪♪	♪♪♪♪卒	１１１１１

H15 年３月にご卒業、さらに１年分の年会費を頂いたので H22 年度まで納付しておられます。

◎尚、年会費を納められるとき「何年度分」と指定されても、過去分が未納の場合、そちらへ充当させていただいております。また不明の場合は、事務局までお問い合せ下さい。

原稿は出来る限り400字詰原稿用紙1枚以内にして下さい。原則として原稿（含写真）は返却いたしませんので御了承下さい。

会員だより

21回　橘組　クラス会

平成22年11月２日（火曜日）第38回目の橘会を開催しました。会場は今回も昨年と同様に、ＪＲ芦屋駅前のホテル『竹園』でした。定刻前に参加者７名集合し、事務的な報告の後乾杯をして、それぞれの近況などを語りながら楽しく会食をしました。

写真は後列左から　森岡甲子男・林　信男
前列左から　一色　皓・樋口達彦・井川　登・羽間重光・井本幸雄の７名です。

次の39回目の橘会は、平成23年11月２日（水曜日）、場所は本年同様ホテル『竹園』と決定し予約しました。１年先のことですが、御予定をお願いします。

幹事は林信男がさせて頂きます。宜しく御願い致します。　（林　信男記）

24回　梅組　秀光美会

11月11日、入学70周年記念“秀光美会”を大阪駅前新阪急ホテルで開催しました。

顧みれば、昭和15年甲子園の甲陽中学の満開の桜花咲く校門をピカピカの制服で共に潜り、机を並べて以来、早70年を数える事となりました。

卒業後、秀光美会の世話役は交替制でしたが、その後を大和ハウス工業の石橋君が、傘下のロイヤルホテルの淡路、別府、沖縄ホテルの竣工の都度、会員の招待をして貰い、更に、大阪本町の石橋事務所を会員の拠所として提供され、今日まで、秀光美会の取り纏めと懇親に努めて戴きました。

誠に残念ながら、今年７月突然病に倒れ帰らぬ人となりました、今日の秀光美会あるは、一重に石橋君のお陰と感謝し、心から哀悼の意を捧げます。

本会は、拠所を無くした秀光美会の今後を、石橋君の遺徳を偲びつつ相談する会合となりましたが、全員が齢を重ねて80歳を越した現在、よくぞここまで続けられたものと“自画自賛”しお互いの健康を称えあい、今後の長寿を祈念しつつ解散を宣言する事となりました。

今後は、元気者の有志だけでも集まりを考えるか？と言いつつ散会しました。

入学70周年記念最終“秀光美会”の参加者、讃井、山根、大戸、田中、清地、中条、古田夫妻の新阪急ホテルでの記念写真を添付します。

秀光美会万歳!!　別府市　古田勝巳
0977-67-2775 / f-cartome@sea.plala.or.jp

25回　桜組・桃組　合同クラス会

平成22年度桜組・桃組合同クラス会を、10月21日（木）に大阪・北新地パーティパークで開催しました。

本年は、桜組４名、桃組４名計８名の出席でありました。桜組では小田さんが遠路遙々山形県鶴岡から出席されました。

当初、両組合せて10名の出席予定でありましたが、当日急用が出来たり、体調不良のため出席出来なくなった方があり、８名となりました。

今回の合同クラス会は、昨年に続いて２回目となり、昨年に引続いての出席の方が多く、お互に顔馴染みとなり、又自己紹介等で面白い話が出たりして、大いに打溶けて歓談し、あっと云う間に時間が過ぎて仕舞いました。

最後は、恒例の校歌と応援歌の大合唱で締め括り、来年の再会を約束して散会しました。

今回の出席者は、桜組：余部光男、小田圭昭、錦織達郎、安達正昭、桃組：大塚雅也、田中邦彦、行友正裕、松原市郎の８名でありました。　（安達記）

第三回　三学年合同同窓会

平成22年11月６日（土）ノボテル甲子園に、昭和22年新教育に基づく新制中学が香枦園に開校され、22年から24年に入学した三学年（34回・35回・36回卒）合同同窓会が、25年振に開催されました。入学時紅顔の美少年も、年を重ねて古希も過ぎ、人生の最終章に向かって日々自遊人を満喫している元気な仲間、約50人が集いました。

仲間は減っても増える事のない同窓会。友の顔を見たり、声を聞いた瞬間、学生時代に戻って当時を思い出し、話に花が咲きました。残念な事は、都合で欠席された仲間たちです。次回には是非ご参加下さい。

12時30分第一部開演。コーディネーターの尾山君（35回）の司会で幕が開き、会を代表して横内君（34回）から開会の言葉がありました。次に、ご来賓の大川貴史教頭先生（55回）から学校の現状に就いてお言葉を頂戴しました。全員で物故者への黙祷を捧げ、往時の友を偲びました。続いて、九十歳に成られても矍鑠とされている宮本茂先生（17回）から、「後輩に伝えたい甲陽の歴史」と題して特別講演を拝聴しました。昭和22年香枦園の旧工専跡に新制中学を開校する経緯やご苦労されたエピソード、そして学校のポジショニングや方針、生徒の在るべき姿等、基本戦略作成に奔走された我々の知らない裏舞台の話をお聞きし、感動を覚えました。心より感謝申し上げます。

引き続き第二部、食事と交流の時間に移り、ご来賓の有田和男同窓会会長（31回）より、ご挨拶と乾杯のご発声を戴き、懐石料理を味わいながら、全員袴を脱いで杯を傾け、当時の文化部・運動部の活動等話題百出。会も半ばとなり、各学年の代表者に一言思いを語って戴き、あっと言う間に時間も過ぎて行きました。中締めとして、田村君（36回）の指揮の下、校歌を元気に蛮声を張り上げて斉唱しました。

閉会の言葉は、鈴木博信君（34回）が、三学年合同同窓会の今後の活動への期待と甲陽学院同窓会の更なる発展の為にどうあるべきか等貴重な提言がなされ、再会を誓って幕を閉じる事になりました。欠席者から戴いた近況は、紙面の都合で割愛させて戴きました。ご了解下さい。最後になりましたが、当日皆さんより受け取りました会費から、金参万円を甲陽ファンドに醵金させて戴くことにしました。皆様のご協力に心より感謝します。

水野（34回卒）記

36回　同窓会

日　時；平成22年５月13日（木）
　　PM4：00～PM9：00
場　所；ＪＲ芦屋ホテル竹園３階コスモスと
　　９階スカイバー
出席者；稲松　登・足立元之・岡居眞恭・但井浩二・
　　大野　進・當舎　侃・鮎貝盛和・中村信義・
　　丸野貞彦・福田　達・原　謙三・石原正紀・
　　山下房雄・竹内陽一・船越辰緒・光永三郎・
　　上田重晴・矢野篤太郎・北条達造・
　　杉野修三・中田俊士・西村善明・矢田　忠・
　　中川博二・田村眞也・酒井洋一郎・
　　星野　彰・浦野宗保
幹　事；原納　優・角野敏一・平井　肇
ゴルフ世話人；中川博二さん
　　（翌日の芦屋カンツリー倶楽部のゴルフ段取り）

今回の同窓会は31名の参加者を迎えて前回評判の良かった立食形式に致しました。本年は二人の先生方に講演を依頼しました。一人は現在米国在住の浦野宗保氏（放射線医学・腫瘍専門家）が本年も日本に帰国されましたので「がん」の話を…。もう一人は上田重晴氏（ウィルス専門家・阪大微研理事）に「麻疹及びインフルエンザ」の話をお願い致しました。

我々の年代には一番関心のある話題でしたので、大変評判が良かった様です。残り時間が少なくなりましたので、個人の近況報告は数人の方にしていただいて、後は返信葉書を回読いたしました。

最後に校歌を斉唱し記念写真を終えまして、一次会は終了しました。

二次会は22名の参加で楽しく９時頃迄過ごしました。次回幹事は、大野進さん、光永三郎さんと竹内陽一さんです。ゴルフのお世話は中川博二さんです。

（原納・角野・平井）

今年の夏の会員総会は
８月28日（日）午前11時より開催します。
詳しくは最後のページをご覧ください。

51回　卒業40周年記念祝賀会

2010年11月27日ノボテル甲子園において51回生の卒業40周年を記念しての学年同窓会を開催しました。

恩師、中島博先生、宮本茂先生、静利一郎先生の御出席をいただき、51回生約50名が参加しました。なごやかな雰囲気の中、互いに旧交を温め、盛会のうちに再会を約して散会しました。幹事は辰野、田邊、川口、野村、久加天、志方、生島、本井、森本、写真撮影は重松君でした。

第7回　同窓会ゴルフコンペご報告

10月24日（曇天）上記ゴルフコンペが９組34名参加の下、「武庫の台ゴルフコース」で行われました。

今回から同窓会長杯（カップ）が寄贈され、優勝された水野博好氏（61回）に平田名誉会長からカップが授与されました。午後から小雨が散らつき、多くのメンバーがスコアーを崩した中でグロス41－48の水野氏がピカピカのカップを手にされました。

優勝のミズノ氏の弁

私がこの同窓会ゴルフに参加するきっかけは「甲陽だより」でした。色んな世代が「同窓」という冠のもとゴルフを通じて集う、いいことですよね。これから私も新規参加者を探して更に参加者が増えるよう協力して行きたいと思います。次回の抱負？勿論優勝です。幸運のワンパットの女神が降臨することを期待しつつですが…

最後にコンペ開催にご尽力頂きました皆様にお礼申し上げます。

次回は４月17日（日）武庫の台９時集合で行います。

- プレーフィー：¥14,000
- 申し込みは中村まで
  - ・Tel＆Fax：072-777-1009
  - ・メ　ー　ル：teisan@d4.dion.ne.jp
  - ・携帯メール：teisan51257767@docomo.ne.jp

幹事　早川博（35回）水野博好（61回）

第58回　甲陽灘サッカー定期戦

2010年６月20日灘高等学校グラウンドにおいて、第58回甲陽灘サッカー定期戦がおこなわれました。

９時開会式の後、中学校の試合は２－１で甲陽学院の勝利、また高等学校の試合は１－０で甲陽学院が勝利しました。その後ＯＢ戦については甲陽学院からは多数の若手ＯＢの御参加をいただき、とどこおりなく実施することができました。今後とも、ＯＢの皆様の積極的なご参加をお願いします。

サッカー部　初蹴り会

新春の恒例行事、初蹴り会は平成23年１月３日10時より甲陽学院高校グラウンドにておこなわれました。ＯＢ会長中村貞三氏による挨拶、記念撮影のあと、現役選手チーム対ＯＢチーム、続いて、ＯＢチーム対ＯＢチームなどの試合が多数おこなわれました。本年も暖かい日差しにめぐまれ、思う存分サッカーを楽しむことができました。

来年もまた同様の日時にて開催を予定しております。個々にお知らせしませんが、来年もまた、お元気でご参加くださいますようお願い申し上げます。

甲　陽　史　学　会

平成22年８月28日（土）午前10時より、ノボテル甲子園において甲陽史学会例会が開催された。当日は国際日本文化研究センター教授笠谷和比古氏（49回）が「大阪の陣と豊臣氏」と題し、世に言われるごとく関ヶ原合戦は「天下分け目の戦い」ではなく、関ヶ原合戦後も、豊臣家は西国を中心に権勢を保ち「豊臣・徳川二重公儀体制」にあり、その体制が破綻したのは「大坂の陣」であったと報告を行ない、その後質疑が行われた。

当日の参加者は、有田和男（31）橋本久（41）宮崎恒彰（42）渋谷元（43）奥山哲夫・木谷義紀・田辺征夫（44）笠谷和比古（49）五十川伸矢（50）久義裕（62）荒木隆（88）山内英正・片岡太郎・工藤駿（教員）田岡春夫・黒田慶一の各氏であった。

甲陽史学会は田岡香逸氏、高井悌三郎先生、宮川秀一先生により発足し、現在その名を継承し、甲陽学院同窓会の協力を受け、甲陽学院関係者を中心に活動しています。例会は同窓会会員総会当日午前中に開催しています。同窓生諸氏のご参加を歓迎いたしております。

久義裕（62回）記

NEWS

東野治之氏（46回）　日本学士院会員に

甲陽学院46回卒業生で奈良大学教授の東野治之氏が日本学士院の新会員に選ばれました。学士院としてはかなり若い世代に属する会員で、昨秋の紫綬褒章受章に引き続いての栄誉となりました。東野氏は小学生の頃から奈良の仏像を見るのが好きで、甲陽学院中学では漢文を白文で読むという隔絶した学識の持ち主で、勉強・学問に傾けるその端正な姿勢は周りの生徒たちの追随を許さぬものでした。今は鬼籍に入られましたが、甲陽時代における国語の北村善一先生、歴史の宮川秀一先生・高井悌三郎先生から深い影響を受けたのではないかと推察しています。

学問面での業績は学士院の紹介文（下掲）に譲りますが、岩波新書を4冊著していることからも知られるように、新書等の本でも手を抜かない誠実さと平明に物事を説明する能力に長けており、講演会はいつも多くのファンで賑わっています。大学教授として学問に関しては大変厳しい反面、その人柄はゼミ生をはじめ学生たちから深く慕われており、また、日常にあってはワグナーに傾倒し日本酒を嗜む、肩の凝らない人付き合いのできる、心根の優しい好漢です。

以下、「日本学士院」の紹介文からの引用です。

「東野治之氏は、日本古代史のうち、7～8世紀（飛鳥・奈良時代）の頃を主たる研究分野とし、各種の文献史料を精密に解読することにより、国制史から上代国語の問題にわたって、古代史の真実に迫るすぐれた業績を上げています。特に1961年（昭和36年）に平城京跡で出土して以来、各地での発見が相次いだ木簡は、新しい文字史料として注目されましたが、東野氏は早い時期にその調査・研究に従事し、木簡研究の基礎となる論文を多く発表しています。木簡の中には習字に使用した断片もありますが、同氏はその文字を判読するとともに、漢籍に関する該博な知識に基づいて出典を明らかにし、さらには漢字文化受容の実態を解明しています。このほか金石文の解読や、正倉院宝物など美術品や工芸品の研究、また遣唐使や鑑真をめぐる日唐関係の解明にもすぐれた成果を上げています。」

※**日本学士院**（にっぽんがくしいん）は学術上顕著な科学者を優遇するための機関として文部科学省に設置されており、学術の発展に寄与するため必要な事業を行うことを目的としています。明治12年に福沢諭吉を初代会長として創設された「東京学士院」を前身とする130年の歴史をもち、学術的な業績をもとに選定された定員150名の会員により組織されています。各学問分野におけるトップレベルの学者らが会員として名を連ねており、150人だけが会員であるという、まさに学者中の学者と言われています。

（西村公男　記）

告　知　板

☆ 同窓生の近著ご紹介 ☆

同窓会員の方から、最近出版された書籍をお知らせいただきましたので、紹介いたします。ご自身やお知り合いの方の著作物などをご紹介くだされば、検討の上、甲陽アーカイブスへの掲載も考えておりますので、よろしくお願いいたします。

清涼院流水（本名　金井英貴（74回））
「キング・イン・ザ・ミラー」PHP研究所
マイケルジャクソンの繊細でミステリアスな魂を描き出した物語

☆ ーお願いー　住所変更の届け ☆

＊会報の発行に際し、毎回・約100通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。
＊その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。
＊各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

☆ お詫び ☆

甲陽だより本号の発行が予定より大幅に遅れましたことをお詫び申し上げます。

－編集委員一同－

☆ 新卒者の終身会費制度 ☆

今年高校を卒業した92回生の皆さんは、卒業時点で終身会費を納めることを選択できます。詳細は、追って振込用紙同封の文書にてご案内いたします。

また、これに伴い、卒業後7年以内の方（卒業時に7年分の年会費を前納）でも、ご希望により終身会費制に移行していただけるようになっています。その際の金額はP.4の表をご覧下さい。

☆ ご注意！住所・電話番号の問い合わせ ☆

最近、「甲陽学院同窓会」や「甲陽高校事務室」の名前を騙り、同窓生の携帯番号や住所、メールアドレスなどを問い合わせる電話がかかっているようです。

現在、同窓会や母校でそのような調査活動をしている事実はありません。

皆様には、先方の名称・住所・電話番号などをご確認いただいて、慎重な対処をお願いいたします。

☆ 「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

＊次号・第84号は、本年７月末頃に発行を予定しています
＊「会員だより（同期会・クラス会）」・「運動部・文化部のＯＢ会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。
＊原稿の締切日は、本年6月10日です。

今年の夏の会員総会は日曜日に開催します！

8月28日（日）午前11時から　ノボテル甲子園

今年の夏の会員総会は、8月28日の日曜日の開催といたしました。これまで土曜日開催で都合がつかなかった会員諸氏にはふるってご参加ください。

第１部の講演会は、東京大学大学院医学研究科教授の**岩坪威教授**（59回）をお招きして**「アルツハイマー病への挑戦（仮題）」**というお話をしていただく計画です。

岩坪教授は、昭和59年に東京大学医学部ご卒業された後、長らくアルツハイマー病の研究に取り組んでこられました。平成20年には米国の権威ある**メトライフ医学研究賞**を受賞されています。

誰もが気になる認知症とくにアルツハイマー病について最先端の研究事情を教えていただきます。国際的に高い評価を受けておられる岩坪先生の講演会です。ふるってご参加ください。